



周囲が見えない生活 実際はどんな感じ？

私はほんの少し明るさが分かるくらいですが、ほぼ見えています。目が見えないと何もできないのでは、とよく思われるようですが、家事などちゃんとできるんですよ。最近はいろいろな機器に音声機能が付き、とても使いやすくなりました。スマホも便利ですね。自宅では、容器の形が似ている調味料などに、シールを張ったり、輪ゴムを掛けたりして、触って識別できる工夫をしています。薬などにも、箱や袋に薬名と飲み方などの点字シールを作って貼っています。



輪ゴムを掛け、触って識別

歩くときは怖くないの？

1人で外を歩くときは、白杖を使って慎重に歩いています。白杖で地面をたたくと素材で音が変わるので、それを道しるべにすることもあります。点字ブロックがあると歩きやすく、信号やエレベータの前など注意する場所が分かるので、とても助かります。

誰かと一緒のときは、肘を持たせてもらって歩くと安心ですね。

お手伝いしたいとき、 どんなふうに声を掛けられたい？

遠くからだと分からないので、近くに来て肩をたたくて声を掛けてもらえると、自分に話し掛けられていることが分かりますよ。

私にできることはなに？

障がいのある人との コミュニケーション



障がいなどの特性によって、意思疎通の手段が限られる方が、不安を感じたり、周囲と交流しにくかったりすることがあります。そういった壁を越えるために、社会にはさまざまなコミュニケーション手段があります。みんなが等しく情報を得て、安心した生活を送ることができるよう、一緒に始めてみませんか。

高齢障がい支援課 ☎(05)35558

音のきこえない生活 実際はどんな感じ？

「スゥ」と言っても、きこえ具合は人それぞれ違います。私は人工内耳を装着していますが、外していると飛行機のジェット音もきこえません。装着していると30dB(鉛筆で文字を書く音)くらいまできこえます。人工内耳や補聴器を装着していても、きこえにくい音質があります。高い音や機械を通した音がきこえにくい方もいますね。

人との会話は、ざわざわしていない、静かな場所だと聞き取りやすいです。サイレンなどがきこえないときもあるので、文字の情報

は助かります。



分かりやすく言葉を伝えるには、 どんな工夫をしたらいい？

手話ができなくても、紙やペンを使ってやりとりする筆談、体で表現する身ぶり、口の動きを読み取る口話など、コミュニケーションする方法はいろいろあります。話をするときは、ゆっくり大きく口を動かして話してもらえると分かりやすいです。

日常で、意外なところで起る 困ったことはどんなこと？

自宅を訪れた人が、インターホン越しに話をするときや、無人駅などで、係の人への連絡手段が電話機しかないときに、困ることがあります。



吉田裕美子さん

元々見えていたのですが、病気で視力が下がり、15年ほど前に全盲になりました。視力を失ったときは、やはりどうしたらいいのかわからなかった。そんなとき、通っていた施設で出会った視覚障がいのある皆さんが、障がいに負けずに生き生きと過ごしている様子に触れました。彼らからいろいろな知恵を授けてもらい、私もこの先、大丈夫なんだと希望を持つことができました。見えない苦労はもうありません。でも大切なのは、人とのつながり。家族や友人、ボランティアの皆さんの支えがあって、今の私があると思っています。



私も視力を失って不安を感じる人に、大丈夫だよと伝えていきたいです。

人とのつながりが、今の私を支えています

ために制定された条例

市では2022年4月「大府市障がいのある人のコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を制定しました。障がいの有無に関わらず、誰もが等しく情報を得て、意思を伝え合える共生社会の実現を目指したものです。

見え方・きこえ方などの違いでコミュニケーションに障壁がある場合、それをサポートするために、手話・点字・文

字・音声・絵カードなど、情報を伝える多様な手段があります。みんながそういった手段があることを知り、状況に合わせて使っていくことができれば、誰もが平等に情報を得て、活躍できる社会になります。

障がいのある人・サポートする人など多くの声をきき、思いを込めて世に送り出した条例です。



誰もが等しく情報を得る

佐藤かおりさん



3歳の時に高熱を出して聴力が下がり、20代で聴力を失いました。現在は人工内耳を使っています。

小学3年生までは口話でやりとりしていましたが、ろう学校で手話を使う機会が増えて、自然に覚えました。

今は日常生活に大きな不便を感じていませんが、災害時に正確な情報が取れる心配です。信頼できるところからの文字情報が大きな助けになると思っています。

細かい説明を受けるときなどは、事前に手話通訳者を依頼しています。文字起こしをするスマホの無料アプリを使うこともあります。SNSのチャットのように楽しく使えるものもありますよ。

手話を学んで、交流の世界が広がりました



電話リレーサービス

聴覚や発話に困難がある方と、きこえる方との通話内容を、手話や文字で通訳するサービスです(利用申込が必要)。

緊急時でも、安心して電話がかけられます。

利用登録した坪田さん



市役所窓口の手話通訳

市役所窓口での手話通訳サービスです。

毎週(月) 14:30~16:30

毎週(水) 17:15~19:15

手話リンク

手話通訳オペレータを介して、市役所の代表番号に電話できるサービスです。

詳細は
21ページ

軟骨伝導イヤホン

きこえをサポートするイヤホンです。市役所窓口での利用に当たり、高齢障がい支援課で貸し出しています。

点字プリンター

視覚障がいのある方に向け、点字印刷物を作成します(利用申込が必要・点字翻訳が必要な場合、2カ月程度かかります)。

ネット119

救急車や消防車をチャット形式で依頼する緊急通報システムです(事前登録が必要)。

災害用コミュニケーションボード

避難時に、主に聴覚・知的・発達障がいのある方などと他の避難者が、絵と文字で意思の疎通を図るツールです。

市議会の字幕表示サービス

議会での発言内容を、字幕表示するサービスです(利用申込が必要)。



アロブ図書館の支援サービス

文字の読みづらい方への、点字や録音などのさまざまな支援があります(利用者登録が必要)。



手話サークル すみれ

手話に関心のある方とろう者が、共に学びながら交流を深め合う場です。

生活に関わる用語などを、毎回テーマに沿って手話を習得し、自分自身の体験を学んだ手話を使って発表しています。手話は、手や口の動きに、視線や表情も加わった「見る言葉」です。手話を使って交流する喜びを感じながら、楽しく活動しています。



社会福祉法人大府福祉会 あけび苑



杉本さんが制作した自立課題

あけび苑では、知的障がいや自閉症など障がいのある方の生活介護事業や就労継続支援B型事業を行っています。障がいの特性から、利用者の皆さんは聴覚や聴覚が過敏な方も多く、感じ方や表現もそれぞれ違います。細かい手作業や日常の動作などを取り入れた自立課題を一人一人に合わせて制作し、提供しています。少しずつ新しい経験を積み、できることを増やし、喜びにつながるよう工夫しています。それぞれの「めばえ」を見つけ、利用者の皆さんの生活が豊かになるように支援しています。



生活支援員 杉本さん

障がいを越えて 共に楽しめるイベント



11/15(土)・・・26(水)
東京 2025 デフリンピック

きこえない・きこえにくい方のためのオリンピックが日本で開催されます。国際手話のほか、視覚による情報保障が特徴です。



大会ウェブサイト

担当者より

思いを伝えたり、相手の話を理解したりする手段は、障がいのある方一人一人異なります。

手を取り合って歩むことで、理解の輪が広がり、よりよい共生の社会が実現します。一緒に誰もが安心して暮らせるまちを目指しましょう。



高齢障がい支援課
川合菜帆



点訳グループ 秋桜(こすもす)

いろいろな文章の点訳と、小・中学校などの福祉実践教室で、視覚障がいについての理解を促しています。

点字には、単語の間に空白を入れるなど、さまざまなルールがあります。日頃の活動では、テキストに基づいて点訳の知識を深めています。



秋桜の皆さん

音訳ボランティア しずく

目に障がいのある方だけでなく、加齢などで文字の読みづらくなった方にも向けて「広報おおぶ(声の広報)」と、新聞・雑誌の記事などをピックアップして音読した「声の週刊誌」のCDを、月に3度郵送でお届けしています。



「声の週刊誌」では、世の中の「今」を感じられるように選んだ新聞記事などを、持ち寄って読んでいます。ゆっくり・はっきりと、情景が浮かぶように読み、聞き手の方もその場に一緒にいるような気分になれるよう、記事の合間に少し会話を入れるなど、ぬくもりのある録音を心掛けています。



しずくの皆さん

きこえのサポート ミモザ

パソコンを使って音声情報をその場で要約し、文字で伝える活動を行っています。作業には専用アプリを使うので、社会福祉協議会の講座を受け、使い方や要約ルールを学んで活動しています。



ミモザの皆さん

知識が必要です。活動では、手書き要約筆記サークルOHPたんぽぽの皆さんの協力も得て、寄り添う気持ちを大切に学んでいます。要約を見た方々が、助かったと笑顔になれる一助となっていきたいですね。

私にもできるかも

「わからない」の不安を

みんなで減らそう

市内には、障がいのある方のコミュニケーションを支えるボランティア団体がたくさんあります。興味のあることから、交流の輪を広げませんか。



お手伝いしたい!

利用したい!

市内の活動団体がたくさん/
ボランティアに関する情報は

総合ボランティアセンター
(社会福祉協議会内)
☎(48)1805



要約筆記サークル OHPたんぽぽ

話し手の言葉をその場で要点をまとめて文字にして伝える要約筆記です。きこえない・きこえにくい人は文字を読んで情報を得ることができません。要約した手書きの言葉を紙に書いて、スクリーンに投影して伝えていきます。きこえない・きこえにくい人に情報を正確に、遅れないように、わかりやすく伝え、彼らがその場に参加する権利を守る活動をしています。



いきいき幸齢者フェスタで要約筆記をする両サークルの皆さん